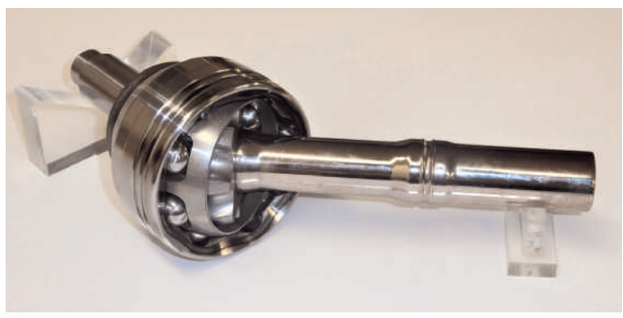
第19回／2022年 超モノづくり部品大賞

大賞にNTN

カーボンニュートラルに対応

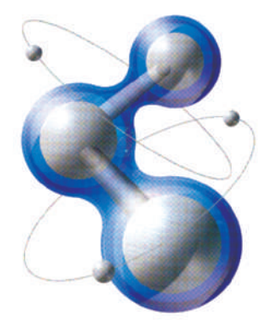
モノづくり日本会議と日刊工業新聞社は、「第19回／2022年㊗モノづくり部品大賞」の贈賞式を12月5日、東京・錦糸の東武ホテルレバント東京で開催した。大賞に輝いたNTNの「高効率固定式等速ジョイント『CFJ』」のほか、各賞合わせて44件を表彰した。日本のモノづくりの競争力向上を支援するために、産業・社会の発展に広く貢献する部品・部材を表彰するもので、今回もカーボンニュートラル（温室効果ガス排出量実質ゼロ）への対応など、社会課題解決策を盛り込んだ受賞部品・部材が並んだ。


大賞を受賞したNTNの高効率固定式等速ジョイント「CFJ」

社会課題解決を念頭 研究開発の成果が受賞

㊗モノづくり部品大賞はモノづくりの「縁の下の力持ち」にスポットを当てようと、経済産業省、日本商工会議所、日本経済団体連合会の後援で2003年から開催されている。今回は前年を上回る86件の応募があり、ポストコロナを踏まえた新たなモノづくりの展開に向けて、イノベーションの胎動が感じられた。

6人の審査アドバイザー（慶応義塾大学名誉教授・中部大学名誉教授の稲崎一郎氏、東京工業大学学長の益一哉氏、日本自動車研究所代表理事・研究所長の鎌田実氏、資源・環境ジャーナリストの谷口正次氏、ユニバーサルデザイン総合研究所所長の赤池学氏、東北大学名誉教授・サステナブル経営推進機構理事長の石田秀輝氏）ほか専門家が、機械・ロボット、電気・電子、モビリティー関連、環境・資源・エネルギー関連、健康福祉・バイオ・医療機器、生活・社会課題ソリューション関連の6分野において厳正な審査を行い、大賞、モノづくり日本会議共同議長賞、ものづくり生命文明機構理事長賞、日本力（にっぽんぶらんど）賞、各部門部品賞、奨励賞を選定した。今回は大賞受賞部品をはじめ、地球環境など社会課題解決を念頭に置いた研究開発の成果が目立っている。



■講評■

日本自動車研究所 代表理事・研究所長 **鎌田 実氏**

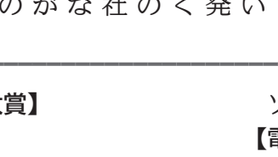
日本のモノづくりの競争力

受賞部品・部材は、いずれも高い技術力で開発されたものであり、市場の高い評価が受賞につながった。大賞のNTN「高効率固定式等速ジョイント」は自動車の駆動軸に用いられ、トルクの損失を50%も低減する優れたもの。日本のモノづくり力の一端を示している。モノづくり日本会議共同議長賞の安川電機「オープナーロボット」は自動車の塗装工場での作業性向上に役立つロボットで、リーチが長いにもかかわらず40kgの可搬重量を実現し、技術力が高い。ものづくり生命文明機構理事長賞のスギノマシン「省エネパッケージ」は高圧水部品洗浄機の高圧水発生ポンプに組み込むもので、消費電力を大幅に低減し、二酸化炭素（CO2）低減に貢献する。

全ての受賞部品から感じることは、日本のモノづくり力の競争力の高さだ。新しい発想による新製品や、地道な改良を続けたものまでさまざまなものが受賞したが、それぞれに受賞企業の底力を感じた。

今後はカーボンニュートラルに向けた動きがさらに加速する。時代の変化や多様なニーズに対応して行くことが求められる。企業のたゆまない努力が社会貢献につながるという高いモチベーションに期待する。

あいさつ


経済産業省 製造産業局 ものづくり政策審議室長 **伊奈 友子氏**

見えないニーズをくみ取る

モノづくり全般を取り巻く環境としては、DX（デジタル変革）やカーボンニュートラルへの対応だけでなく、GX（グリーン・トランスフォーメーション）やウクライナをはじめとする地政学的リスクも顕著となってきた。企業各社にはロボット化や省力化が求められる。

しかし、さまざまな経済の混乱があるものの日本の製造業の強さを改めて実感している。日本の部品・素材は世界から求められ、輸出によって日本経済を支えている。

モノづくり各社は課題を解決する力も強いと感じている。現在の課題は環境問題やSDGs（国連の持続可能な開発目標）にどう対応していくかで、それに連動して例えばEV（電気自動車）化が進んでいる。新しい部品をどのように開発し、先行して作っていくか、まだ見えない顧客のニーズを汲み取って、社会課題を解決していかなければならない。そこが日本のモノづくりの力の源泉となり、部品の力は世界のモノづくりを支える。

本日の受賞の皆さまをはじめ、日本のモノづくりを支える各社を支援してまいりたい。

【㊗モノづくり部品大賞】
NTN

【モノづくり日本会議　共同議長賞】
安川電機

【ものづくり生命文明機構　理事長賞】
スギノマシン

【日本力（にっぽんぶらんど）賞】＝4件
三井フォトニクス
オカムラ
日本タングステン
太平洋工業

【機械・ロボット部品賞】＝9件
SMC
オーエスジー
MOLDINO
牧野フライス製作所
トリーエンジニアリング
CKD
日立金属
フジキン
ソディック

【電気・電子部品賞】＝4件
ミツミ電機
住友重機械工業
ローム
トレックス・セミコンダクター

【モビリティー関連部品賞】＝3件
山田マシンツール
ダイヘン
マクセル

【環境・資源・エネルギー関連部品賞】＝3件
ファインマシーンカタオカ
三恵金型工業
GF技研

【健康福祉・バイオ・医療機器部品賞】＝3件
新東工業
竹中工務店、日本エアーテック
魁半導体

【生活・社会課題ソリューション関連部品賞】＝4件
宇都宮工業
文化シヤッター
トヨタ紡織
アイクライス

【奨励賞】＝11件
兼房
三和シヤッター工業
理研興業
ビー・アンド・プラス
三菱マテリアル
エイブリック
エヌティーツール
日進工具
兼工業
清川メッキ工業
オリエンタルモーター

※各賞内では応募受付順

第19回／2022年㊗モノづくり部品大賞受賞企業名

日刊工業新聞社大橋正彦専務（左）から贈賞

■「COCOAR」で動画視聴可

「COCOAR」アプリを起動し、指定画像にかざしてスキャンすると大賞受賞部品の動画がご覧いただけます。

「COCOAR」アプリ（無料アプリ）は、下のQRコードを読み込み、インストールしてください。

有効期限：掲載日より2年間

《注意事項》

環境により反応まで時間がかかる場合があります。アプリは無料ですが、パケット通信料（利用者負担）がかかりますので、Wi－Fiのご利用をお勧めします。通信状況、OSのバージョン、カメラの性能、かざす際の光の反射の影響などにより作動しない場合がございます。

NTN 社長 **鵜飼 英一氏**

喜びの声

これまで18回開催された中で挑戦を続け、何回か受賞してきたが大賞受賞は初めて。従業員一同、「ブラボー」と叫んだ。当社は1918年創業し、ベアリングを祖業としている。等速ジョイントは63年に開発し、日本で初めて量産化したもの。70年代に爆発的なFF（前輪駆動車）化が進み、動力伝達部品として世界に供給し、現在では世界2位のシェアを持つ。

開発から10年 日の目見る

しかし順風満帆という訳ではない。新興国などの技術的な追い上げやコスト面の競争などもある。その中で今回受賞した部品は、EV化や作動の広角度化に対応して2010年に開発したもの。日の目を見るまで10年かかったが、今秋から内外の自動車メーカー各社に需要をいただき、量産化に至った。

EV化が進んでも、ジョイントは変わらず使われるもの。またタイヤ内部に用いるハブベアリングも世界1位のシェアがある。動力をタイヤに伝える部分について、世界をリードする自負を持って進みたい。

今後の持続的社会に向けた「サステイン」という言葉は、製造業である私たちにとって「メインテイン」に近い。センサー技術を使って監視し、使用者に知らせ、機械停止によるエネルギーのロスを防いでいく。

超 モノづくりへの挑戦

「モノづくり日本会議」は、2007年9月に設立した「モノづくり推進会議」での活動を土台に、広域企業ネットワークや他機関との連携を活用し、日本のモノづくり産業の強化に役立つ実践的な勉強会・シンポジウムなどのイベントや交流会などの活動を展開しており、日刊工業新聞社が事務局を務めさせていただいている団体です。

少子高齢化、環境対応、資源・エネルギー問題など様々な課題を乗り越え、「超モノづくりの推進」をテーマに、事業を進めております。これまでの取り組みを発展・拡充させるとともに、IoTやAIを含めたロボット産業や「防災イノベーション」など、横断的テーマについては、より実践的な成果を目指します。

先進的な技術やノウハウを有する会員企業をはじめ、多彩な連携機関のご協力をいただき、モノづくり産業のさらなる発展を目指して事業を展開し、モノづくり産業の競争力強化につながるよう、地域間、企業間連携をおこない、ビジネスマッチングなども図っていきます。

モノづくり日本会議の事業

グローバル競争力強化関連事業
・モノづくり力徹底強化検討会　・人材育成関連事業　・長寿企業イノベーション勉強会
・ビジネスモデル価値創造研究会　・新モビリティー研究会　・企業価値革新検討会

新産業・ビジネス創出／ビジネスモデル構想力向上検討事業
・新産業技術促進検討会　・ロボット研究会　・AI研究会

その他の事業コンテンツ
・顕彰事業 超モノづくり部品大賞　・モノづくり推進シンポジウム　・特別講演会
・地区別研究会　・交流・マッチング事業　・会員向け調査レポート

各事業の詳細は、モノづくり日本会議ホームページ（www.cho-monodzukuri.jp）をご覧ください。

お問い合わせ先　モノづくり日本会議
モノづくり日本会議事務局
〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14番1号（日刊工業新聞社内）　Tel.03-5644-7608　Fax.03-5644-7209